



研究テーマ

1 暖地型マメ科牧草の栽培利用に関する研究

2 草地におけるアーバスキュラー菌根菌と牧草との関係に関する研究



飛佐 学

とびさ まなぶ
農学部
畜産草地科学科

教授

キーワード

暖地型マメ科牧草、ファジービーン、サイラトロ、グリーンリーフデスマディウム、アーバスキュラー菌根菌、共生

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

南九州の気候に適し、輸入飼料と代替可能な栄養価の高い暖地型マメ科牧草の選定と栽培方法、利用方法の検討を行っています。

また、草地の土壌中に生息するアーバスキュラー菌根菌は植物と共生し、植物の成長を助けますが、草地の管理方法により、共生関係が変化します。草地でアーバスキュラー菌根菌と牧草の共生関係が有効利用できるような草地の管理方法を模索しています。

1 暖地型マメ科牧草の栽培利用に関する研究

現在、南九州地域においては暖地型のマメ科牧草の栽培利用はほとんど行われていません。マメ科牧草はイネ科牧草に比べタンパク質や特定のミネラル含量が高く、また土壌の物理性や化学性などの改善効果も認められます。南九州地域の気候に適したマメ科牧草を選定し、栽培・利用していくことで、草地生産性の向上、畜産経営の改善にもつながります。現在、数種の暖地型マメ科牧草について生産性や飼料品質の評価を行っています。その一草種であるファジービーンは、生産性が高くサイレージの発酵品質も良好で、有力な草種として考えられています。

2 草地におけるアーバスキュラー菌根菌と牧草との関係に関する研究

アーバスキュラー菌根菌は陸上のほとんどの植物と共生関係を持ち、植物の根に菌根を形成し、植物の養分や水分の吸収を助け、耐干性や耐病害虫性を高めます。効率的にこの共生関係を利用することで、肥料施用量の節減にもつながります。

現在、草地において、牧草とアーバスキュラー菌根菌の共生関係がどのようになっているのか、様々な条件下での関係を調べています。アーバスキュラー菌根菌の共生関係を有効利用した草地の管理方法の確立を目指しています。

ホームページ

畜産草地科学科

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/ags/>

技術相談に応じられる関連分野

・暖地型マメ科牧草の栽培利用に関すること

メッセージ

・共同研究の希望テーマ：暖地型マメ科牧草の栽培利用に関すること
・実証展示圃場等の要望があれば、ぜひ連絡ください。